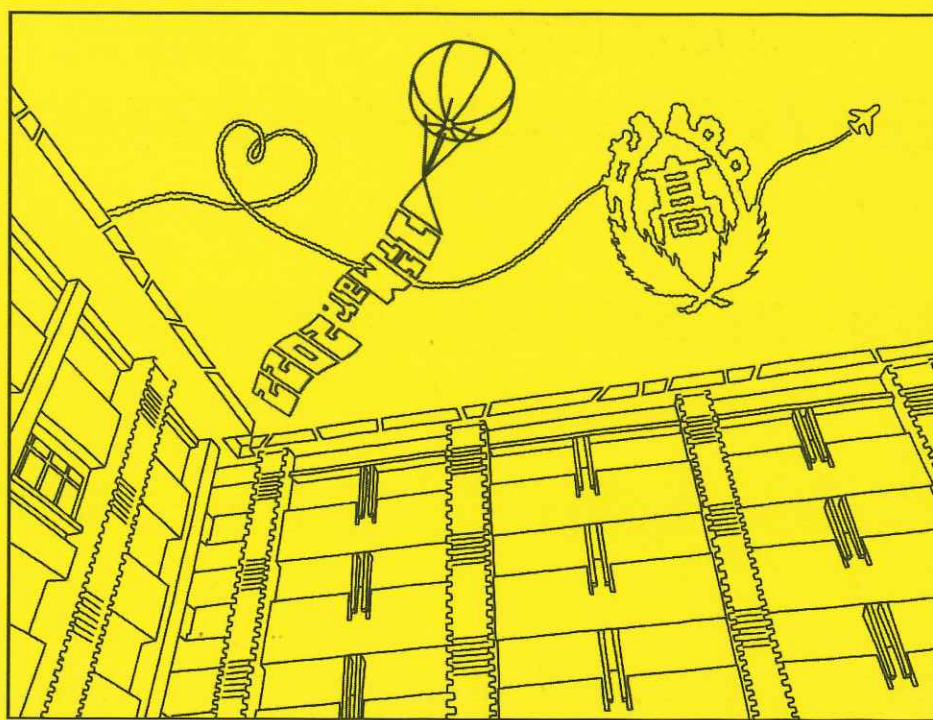


第75回
卒業式要覧



令和4年3月1日
沖縄県立那覇高等学校

校訓

積極進取
和衷協同



……「那」の隷書体

…菜の葉……………「ハ」

…高等学校の「高」の意

校章の「だ円」は円の中で最も美しい形と考えられ、また心のまるやかさを表し、「なの花」はかれんさ、純粹さを意味し、「高」は高校を表すと共に高邁な思想の意で葉っぱの交わりは戦前の県立第二中学校の校章の基を受けついでいる。

昭和24年制定 図案制作者 島田 寛平 先生

那覇高校校歌

真栄田 義見 作詞
友利 明夫 作曲

♩=96



せいきのあーらしふきすさみ ござんのそうもく



かたちかえちとせのでんとーうー



つろいーてふりぬるあー



ともいまはなーし

那覇高校校歌

作詞 真栄田 義見
作曲 友利 明夫

一、世紀の嵐吹きすさみ
故山の草木貌変え
千歳の伝統うつろいて
ふりぬる跡も今はなし

二、東支那海水清く
空はなごみて地は静か
乾坤ここに春に逢い
新沖繩の夜は明けぬ

三、城岳原頭空高く
麓は聳え陽に映えて
燃ゆる理想の千七百余の
若き力の意気高し

四、雨にも風にも嵐さへ
たゆまず進む学の道
結ぶ心のゆたかにも
励まし励む 那覇高校

五、沖繩の空狭くとも
心は通ふ五大州
世界に伍する高き道
いざ大らかに進みなむ

第75回 卒業式

式次第

卒業生入場 9:10

第1部(卒業証書授与式)

	司 会	屋 良 朝 則
1. 開式のことば	教 頭	仲 間 吉 信
2. 国 歌 斉 唱		
3. 校 歌 斉 唱		
4. 学 事 報 告	教 頭	仲 間 吉 信
5. 卒 業 認 定	校 長	石 原 啓 啓
6. 卒 業 証 書 授 与	校 長	石 原 啓 啓
7. 3カ年皆勤賞報告	司 会	屋 良 朝 則
8. 式 辞	校 長	石 原 啓 啓
9. 祝 辞	P T A 会 長	阿 波 連 秀 敏
10. 祝 電 披 露	司 会	屋 良 朝 則
11. 在 校 生 送 辞	在 校 生 代 表	平 良 吉 志 登
12. 卒 業 生 答 辞	卒 業 生 代 表	渡 眞 利 芽 衣 太
		崎 濱 秀 太
13. 閉式のことば	教 頭	大 城 寿 賀 子

第2部(祝賀の部)

テーマ『 さようなら そしてありがとう 私たちの青春 また会おう 夢咲くその日に 』

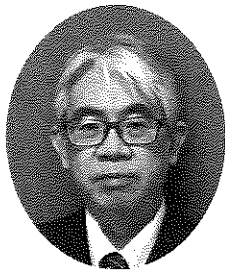
1. 開式のことば	司 会
2. 思い出のビデオ・ テーマ詩の朗読	制作：放送部、生徒会執行部
3. 感 謝 の 礼	遠藤義宗、片山春乃 (75期生有志)
4. 卒 業 の 歌	卒業の歌制作実行委員会 (75期生有志)
5. く す 玉	
6. 閉式のことば	司 会

城岳同窓会入会式 11:50 ~
卒業生退場予定時刻 12:00

表紙題字 3年3組 大 城 怜 未
表紙デザイン 3年9組 真 地 那 月

【 目 次 】

沖縄県立那覇高等学校校訓・校歌	
1. 式次第・目次	(P. 1)
2. 式 辞	(P. 2)
3. 祝 辞	(P. 3)
4. 答 辞	(P. 4~5)
5. 卒業生3カ年の歩み	(P. 6~14)
6. 期別卒業生数	(P. 15)
7. 卒業生の諸記録	(P. 16~17)
8. 卒業生名簿	(P. 18~20)
9. 職員名簿	(P. 21)
10. 卒業の歌	(P. 22)



式 辞

校 長 石 原 啓

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。今日の佳き日に、PTA会長 阿波連秀敏様、城岳同窓会会長 宮里博史様をはじめご来賓並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、盛大に第75回卒業式を挙行できますことは誠に喜ばしいことであり、在校生、職員一同、心より感謝申し上げます。

先ほど卒業を認定し、各担任から一人一人の名前が呼名され、卒業証書を授与いたしました。これは、みなさんが、本校の教育課程を修了し、その成果が認定されたということです。堂々と胸を張って証書を受け取る姿は、頼もしく感じられました。また、保護者の皆様、これまでお子様の成長を見守り、逞しく成長した我が子の巣立ちゆく姿に、感慨も一入（ひとしお）ではないかと拝察いたします。誠におめでとうございます。

さて、卒業生の皆さん、那覇高校での3年間を振り返ってみて、どのようなことが思い出されるでしょうか。高校入試の合格発表の日から入学式を迎え、怒濤の高校生活がスタートし、右往左往しながらも学業や部活動、学校行事等を仲間とともに一生懸命取り組んできたと思えます。それを一変させたのが新型コロナウイルス感染症でした。マスクをすること、手指消毒をすること、一定の距離を取る等等、これまで当たり前であった日常の生活を大きく変えざるを得なくなりました。友人とおしゃべりすることや触れ合うこと、昼食を食べること、休日に気軽に外出することも制限されました。部活動についても多くの大会やコンクールが中止や規模の縮小が行われ、若いエネルギーを爆発させる場も制限されました。台風等によらない臨時休校や分散登校もありました。いろいろなことを我慢すること、耐えることを強いられてきました。……、晴れの日、話が暗くなってきましたね。

皆さんの高校生活は、今話したような状況にありましたが、それをしっかりと受け止め、対応し、何をすべきかを理解し、実践してきました。そして、学業や部活動の面で例年以上の成果や実績を残してくれました。皆さんのことを大変誇りに思います。那覇高校で培った「和衷協同」「積極進取」、そして質の高い「文武両道」を心に刻み、これからも自らの将来に向け頑張れる皆さんだと確信しています。

また、皆さんは、4月に新しい生活がスタートするとともに、新成人となります。決めること、選択することへの責任が自分自身に掛かってきます。その自覚を持つと同時に、これまでもそうだったと思いますが、ご家族や友人も含め、悩みを打ち明けたり相談したりして、ひとりで抱え込まないようにお願いしたいと思います。

さあ、新たな一步を踏み出す時です。これまで築いてきた仲間たちとの思い出、そして、これまで支えて下さったご家族や地域の方々、お世話になった先生方への感謝の気持ちを忘れずに、次のステージに向かっていくことを期待しています。

結びに、卒業生のみなさん改めて「おめでとう！」そして「ありがとう！」。これからは、同窓生として那覇高校の応援団となり、愛し続けて下さい。那覇高等学校第75期生の益々のご活躍とご健勝を祈念し、式辞といたします。

令和4年3月1日

祝 辞

PTA会長 阿波連 秀 敏

校庭の花々がきれいに咲き誇り、皆さんの門出を祝福しています。那覇高等学校75期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

3年前に大きな夢を持って那覇高校の門をくぐり、高校生活が始まった事がつい昨日の事に思い出されます。すべてが初めての高校生活に戸惑いながらも、勉強や部活動に汗を流していました。

しかし、その後は新型コロナウイルス感染症に翻弄された2年間でした。このようなコロナ禍の中でも皆さんは勉学や部活動に励み、自分自身なりの高校生活を過ごし、素晴らしい仲間たちを得て貴重な経験が出来ました。今、卒業を前に振り返れば、誰も経験したことのないコロナ禍に立ち向かい、これまでにない新しい取り組みや考えを実践したことは、これからの人生に役立つことでしょう。ここで忘れていけないことは、家族や友人、先生方等多くの周りの人たちの支えがあった事です。支え支えられた3年間で心も身体も大きく成長しました。このような状況においても、子ども達の夢実現のために熱心に指導していただいた校長先生を始め先生方に感謝申し上げます。

さて、皆さんは二刀流で有名な「大谷翔平選手」を知っていると思います。皆さんと同じ高校卒業時に日本でプレイをするか、アメリカでプレイをするか迷っていたようです。アメリカメジャーリーグでの活躍を夢見ていた彼にとっては、当時は日本でプレイすることは遠回りに見えたかもしれません。しかし結果としては日本での活躍がその後のメジャーリーグでの活躍につながりました。もちろん何が正解かということは分かりませんが、目の前の出来事を一つひとつこなしていくことで夢を引き寄せることが出来ると思います。皆さんもこれから色々な場面で判断に迷う出来事に出会う事でしょう。そんな時は目の前の一つひとつの出来事を乗り越え、自分自身が信じた道を真っ直ぐ進んでください。那覇高校で3年間学んだ皆さんには出来ると思います。

結びに、保護者の皆様、これまでPTA活動へのご協力、ご支援、数々の行事へのご参加ありがとうございました。これからもPTAOBとして那覇高校、那覇高校PTAへの応援をお願い致します。

卒業生の皆さんの益々のご活躍、ご健勝を祈念し祝辞といたします。

令和4年3月1日

答 辞

卒業生代表 渡眞利 芽 衣
崎 濱 秀 太

春の日差しがうらかなこの良き日、私たち那覇高校75期生は卒業の日を迎えることとなりました。この体育館で那覇高校の一員として迎えられた日から三年、この学び舎には、私たちの笑顔や努力、そして悔しさや喜びが深く刻まれています。

那覇高校に入って中学校までは無かった早朝講座が始まりました。朝7時半から始まるこの制度を、当時は早く無くなれ、なんの意味があるんだなど感じていました。しかしいざ無くなると、前は出来ていた早寝早起きの習慣が乱れてきて、授業への集中力が落ちたと感じ、初めて早朝講座の有用性に気づきました。先生方も私たちと同じ時間に来て、大変なはずなのにそのような姿を生徒に見せることなく、普段から、私達が理解しやすいよう授業を作り、親身になって教えて頂いたことに感謝してもしきれません。しかし、高校での授業の難しさは、一年生の私たちの合格への喜びを不安へと変えていきました。入学前から覚悟はしていたのですが、授業のスピードが速くなるにつれて、わからないことが増え、諦めたくなることもありました。そんな時、「分からないところはどこ？」と優しく声をかけてくれた友達。その思いやりがとても嬉しくて、もう一度取り組む勇気が湧いてきました。志高く、切磋琢磨できる友達と出逢えたことは、一生の宝物です。

そんな友達と作り上げる行事は、特別なものでした。城岳祭では、全員が未経験者のため、分からないことが多くありましたが、クラスメイトと協力し合うことで、個性に溢れたイベントになりました。参加型お化け屋敷や真っ暗な迷路、ゲーム、飲食店に動画鑑賞会などの展示と、演劇やミュージカル、オタ芸などの舞台、そして中庭での吹奏楽部の演奏や書道やダンスのパフォーマンス。クラスメイトと一つの目標に向けて意見を出し合い、自分たちが満足出来るまで作業したことや、バザー部門の経営者としてお金の管理をしたことは良い経験になりました。そして、城岳祭の活気に満ちたあの雰囲気はとても忘れられない思い出です。那覇高校には、独自の行事もあります。芸術発表会では、全員で心をつなげて歌い上げる合唱や、精神を整えて書き上げる書道、自分と向き合い、感性をほとぼしらせる絵画をそれぞれに発表し、友人の作品から感じる創造力や表現力に心を豊かにしました。ダンス発表会では、1年次にはクラスで団結し、自分たちにしか出来ない作品を作り上げ、2年次には複数クラスで合同して、話し合いを重ねながら方向性を固め、ひとりひとりが意識を持って大きなパフォーマンスを成功させました。恥ずかしさを乗り越えて自分を表現する勇気や、得意な人が苦手な人を支え、助け合う関係性も、この行事の中で芽生えました。

2019年12月、中国の武漢で新型コロナウイルスの感染者が報告され、数ヶ月の間で瞬く間に感染は世界へ広がりパンデミックとなりました。その異例の事態に対応すべく那覇高校も分散登校やネットを使った授業などのコロナ対策を行いました。今では当たり前となった、体温チェックや手指消毒などを、忙しい中毎日欠かさず呼びかけてくださった先生方には感謝の言葉もありません。学校で私たちが楽しく安心して過ごせるように、たくさんの人に支えられて生きていることをこの期間を通し多々感じました。

高校生活で一番力を入れたことは何かと聞かれると、私たち3年生の多くが「部活動」と答えるのでは無いでしょうか。その高校生活の中心であった部活動も、新型コロナのために出来なくなりました。大会は延期を繰り返

返し、終いには中止。それでも私たちは毎日自主トレをし、限りある大会に望みをかけ、頑張ってきました。高校3年生の集大成であるインターハイは、このような状況での限られた練習の中で、自分たちができる最大限のことに力を注ぎ、インターハイ総合2位と言う大きな成績を残すことができました。これは、生徒の力だけではありません。開催して下さった関係者の方々や、保護者、そして先生方の支えがあったからです。コロナのために思うように練習ができなかった2年間ですが、このような機会を経て、私たちを支えて下さる方々への有り難さをより一層強く感じる事が出来ました。

しかし、行事が無くなってしまふ事はやはり辛いものでした。三年に一度の体育祭。コロナ禍で沢山の行事が無くなっていく中、集められた、全学年総勢約100人のダンスリーダー。コロナ禍で体育祭が中止になり、試行錯誤を重ね、思い出を映像で残すという形に切り替え、全学年総出でダンス練習に励みました。テーマは「夢と希望」。コロナ禍でいろいろなことが制限される中で、ここにいる卒業生の中にも、悩みや不安に襲われ、夢を失いかけた人がいるかもしれません。それでも、希望を持ち夢へ向かって前向きに進んでいく、那覇高生の思いの強さ。私たちが夢に向かって進んでいく中で、日本、世界、私たちのために、支えてくださるたくさんの人への感謝。ありったけの思いをダンスに込め、ダンスで表現し、那覇高生にしか作り出せない、素敵な味のある作品が出来あがりました。全学年で約30分の一つの作品を作り上げ、一生振り返ることのできる、最高の思い出になりました。

新型コロナウイルスの影響を受け、修学旅行、体育祭などの大きな行事が次々に中止されてしまった私たち三年生。このような形で私たちの青春が奪われたことに、悔しさや憤りを感じることもありました。けれども、新入生歓迎球技大会や“なハロウィーン”、クリスマスライブなどの様々な今までにないイベントが実施され、三年生だけでなく、那覇高生全員を本当に楽しませてくれました。コロナ禍でも学校行事楽しむことができたのは、生徒会長をはじめ、生徒会の方々の尽力のおかげです。私たちのために頑張っておられる姿を見て、元気づけられるのと同時に温かい気持ちでいっぱいになりました。心から感謝しています。本当にありがとうございました。

受験期にはコロナの流行により学校や塾に行けないような状況もあり苦しい中ではありましたが、皆で団結して受験勉強に励み、乗り越えることができました。この経験は私たちの今後の人生において大きな財産となると思います。

私たちの高校生活の多くの部分が新型コロナウイルスの影響を受けました。だからこそ私たちは、一日一日を大切に、友達と過ごせる貴重な時間をどのように楽しむかを考え、制限された中で出来ることを精一杯やりました。それでもやり残したことや後悔はありますが、那覇高校に入学したことは間違いではなかったと思います。在校生の皆さんも、卒業する時には、那覇高生としての誇りを持ち、胸を張って卒業できるように、残りの高校生活を充実させて下さい。私たちもここまで育てて下さった両親・家族・先生方、そして関わった全ての方々への感謝と誇りを胸に卒業します。これからも、私たちの成長と活躍を温かく見守って下さい。

令和4年3月1日

答辞作成委員

内嶺 月壺 新垣 遥海 松田 瑠海 マツタニ 伊玲音
宮城 柚月 武井 風夏 長嶺 青空 村山 菜秀
小原 有貴 浦崎 志瑛梨 上原 凜生